東御市
小諸市
文化財めぐりマップ
未知を歩こう。信州
長野県PRキャラクター「アルクマ」
①児玉家住宅
②西宮の歌舞伎舞台
③東町の歌舞伎舞台
④海野宿
⑤旧和学校校舎
⑥春原家住宅
⑦釈尊寺（布引観音）
⑧観音堂宮殿
⑨白山社社殿
⑩小諸城大手門
⑪旧小諸本陣問屋場
⑫小諸城三之門
祢津健事神社
祢津日吉神社
祢津小
祢津小学校下
東部湯の丸 IC
東部湯の丸IC南
浅間サンライン
東御中央公園
東御市役所
田中駅
小諸 IC
雷電くるみの里
湯楽里館
田沢
西宮
大川
和小
下大川
海善寺北
井高
新屋
鞍掛
別府
東部中
和
海野宿入口
田中
常田
押出入口
西原
諸入口
水明小
小諸商業高校
荒町一丁目
小諸市役所
布引温泉こもろ
あぐりの湯こもろ
懐古園
小諸駅
4
94
79
81
18
141
40
153
小諸駅周辺拡大図
旧小諸本陣問屋場
懷古園入口
本町
大手門
大手
通路
三之門
ロータリー
相生町
マップ作成　長野県教育委員会事務局
東信教育事務所総務課
お問い合わせ　電話：0267－31－0250
平成26年10月作成

①旧和学校校舎（県宝）

立派な表の石門を入ると、たくさんのドウダンツツジに囲まれて、雄大な白壁の建物がどっしりと建っています。
この学校は、明治12年（1879）に建てられました。県内では、佐久の中込学校と松本の旧開智学校に次いで古く、上田・小県地方では最古の学校建築です。
この校舎は、和（かのう）村民の熱意あふれる教育愛によって建てられました。心は日本人らしく、知識は西洋の文化という「和魂洋才」型の人間を育てることを目的としたため、日本風と西洋風の両方を建築に取り入れました。　教育資料・民俗資料などの展示もされています。

②西宮の歌舞伎舞台（県有形民俗文化財）

この舞台は、江戸時代の文化13年（1816）に造られたことが記録により、はっきりとしています。
その後明治4年に改修されましたが、主屋部分の構造は創建当時の古い部材が残されており、回しのある舞台としては、日本で最も古い舞台であると言われています。
また、舞台の装置を左右に引き分ける「セリ分ケ」や、前後に移動させる「セリ出シ」、舞台背景をどんでん返しする「田楽返し」などの装置もあり、ダイナミックな演出効果が考えられています。

③東町の歌舞伎舞台（県有形民俗文化財）

日吉神社本殿背後に建つこの舞台は、嘉永年間の記録によると、文化14年（1817）の建立とありますので、西宮の舞台より1年遅れということになります。
なお、「セリ上ゲ」は2か所にあり、「セリ分ケ」・「セリ出シ」・「田楽返し」の装置や、舞台前の階段状の広い桟敷席（見物席）と合わせて、農村歌舞伎の発達史の上からも、貴重な舞台と言われています。
現在も、保存会を中心として、歌舞伎上演が続けられており、地元の小学生たちも、この舞台で上演をし、伝統芸能の継承・創造に一役かっています。

④海野宿（重要伝統的建造物群保存地区）

海野宿は寛永2年（1625）に北国街道の宿駅として開設され、本陣1件、脇本陣2件が設けられていました。
この街道は中山道と北陸道を結ぶ重要な街道であって、佐渡でとれた金の輸送や、北陸諸大名の参勤交代の道であり、善光寺への参詣客も多く通行しました。
宿場時代の建物としては、出桁造りの旅籠屋（一般の人が泊まる旅館）や、防火壁の役割を果たしている立派な卯建の立っている家もあります。
海野宿歴史民俗資料館・玩具展示館・海野宿滞在型交流施設「うんのわ」があります。

⑤児玉家住宅（国登録有形文化財）

松代・祢津往還道に面し、建物と庭園の工事は明治26年に着手、同43年に完成式を行ったもので、畑や竹林を含めた敷地は二千坪、宅地九百坪と十二棟からなる大きな住宅です。
養蚕型民家の主屋は、間口約24m、奥行約11mで、総二階建ての左側が切妻造、右側が二階を出梁でせり出すベランダ状形式とに分かれるのが大きな特徴で、一棟に混在するのは他に例がありません。他に蚕室・土蔵等があります。
この住宅は児玉彦助氏が隠居分家のため建てたものです。

⑥春原家住宅（国重要文化財）

「春原家住宅」は、江戸時代初めころに建てられた大きな農家で、保存解体修理によって復元されたものです。
建てられた当時は、床もない土間を中心として生活していたと思われ、また各部屋の広さに比べて、土間の割合が広いなど長野県の東南部に見られる古い農家の特色が良くあらわれています。
300年くらい前からすでに約40坪の建物が建てられていた（大部分の農家は20～30坪）ことから、村の上層の農家建築であったと考えられ、当地方における古い民家建築として注目されています。

---

⑦釈尊寺（布引観音）

天台宗布引釈尊寺「布引観音」は、千曲川のほとりから険しい山道の参道を15分程のぼります。「牛に引かれて善光寺参り」の布引伝説でも有名で、岩山の崖に築かれた観音堂、中にある「宮殿」は鎌倉前期に建造されたもので、国の重要文化財であり、「白山社社殿」は県宝に指定されています。
春は桜の名所、秋には紅葉が見頃となります。（林道からの道は、道幅が狭いのでご注意ください。）

⑧観音堂宮殿（国重要文化財）

正嘉2年（1258年）鎌倉時代に懸崖造り（切り立った崖に建築物を建てること）の観音堂の岩屋内に安置されていたため、火災の難をまぬがれ、今日に至っています。
岩屋内の湿気により背面と側面などが腐朽していたことから、昭和20年（1945年）に修理復元が行われました。
地方的な未熟さがなく、建立年代が明確なこととともに、美術史上重要な建築物として、昭和11年（1936年）、国宝に指定され、昭和24年（1949年）5月30日、重要文化財に指定されています。

⑨白山社社殿（県宝）

この社殿は往時、御牧原の白山地籍よりここに移築されたと言われています。
一間社春日造、屋根は柿葺、破風、木連格子、鬼板の「ひれ」および水玉模様のような丸紋などは、大面取の柱とともに、室町時代中期を下らない時代の特徴を良く表しています。
全体として必要最小限のもののみで、それがかえって洗練された建築の美しさを遺憾なく示しています。
昭和34年（1959年）に修復され、同年、長野県宝に指定されています。

⑩小諸城大手門（国重要文化財）

大手門は、小諸城の城郭配置からすると、小諸城の表玄関（正門）にあたります。
慶長17年（1612年）、藩主仙石越前守秀久が小諸城を築いた時代の建築で、大工は江戸から招いたと言われ、当時としては瓦葺の門は珍しかったので瓦門と呼ばれたと伝えられています。
二階は居室風になっていて、畳敷で長押をうち、猿頬天井であること、桁を左右の石垣の上に乗せずに、その間に独立して建設していることなど、日本の城門発展の過程を知る重要な建物です。
江戸時代の姿に復原することを目的に、保存修理工事を行いました。

⑪旧小諸本陣問屋場（国重要文化財）

この建物は、江戸時代の小諸宿の本陣と問屋を兼ねていた上田家の住宅で、明治時代中頃、田村家の所有となり、平成5年（1993年）、田村和夫氏より市に寄贈されました。
道路に妻をむけた、二階建、切妻造、桟瓦葺の大規模な建築で、二階にも多くの部屋を設けた総二階です。桟瓦葺や総二階建は当時としては数少ない例であったと言われています。
建築年代は、建築様式などから18世紀末から19世紀初めと推定されています。

⑫小諸城三之門（国重要文化財）

三之門は現在、懐古園の玄関口にあたり、二層、寄棟造、瓦葺の門で、両袖での塀には矢狭間・鉄砲狭間が付けられています。
両側の石垣の上に上層部が渡されている渡り矢倉（多聞矢倉）と呼ばれるものです。石垣の積み方も、本丸や他の郭（近世の城では丸と呼ぶ）のような自然石の石積み（野面積）でなく、一つひとつ加工された切込みはぎの石積みによって築かれています。したがって、慶長期の築城当時の面影を残す大手門のような豪壮さは見られません。